

# 年少者を対象としたインターネット日本語試験 「すしテスト」開発報告

廣利正代・上田和子・押尾和美・歳森真紀

## 1. はじめに

独立行政法人国際交流基金日本語事業部試験課では、インターネット上で受けられる日本語テスト「インターネット日本語しけん すしテスト」(以下、「すしテスト」。 <<http://momo.jp.go.jp/sushi/>>) を 2004 年 3 月から全世界に向けて公開・運営している。「すしテスト」は、「いつでもどここの国でも、受験者が楽しみながら自分の日本語能力を試すことができる」を基本コンセプトに、土岐哲大阪大学大学院教授を制作顧問に迎え、平成 13 年度より開発に着手した<sup>(1)</sup>。

## 2. テスト開発の目的と開発の基本的枠組み

「すしテスト」開発の目的は、海外で日本語を学習している初等・中等教育段階の年少者のため、彼らの日本語学習意欲の向上に寄与し、その学習の継続を奨励することである。開発の基本的枠組みは以下のとおりである。

- (1) インターネットにアクセスでき、日本語フォントが表示できる環境であれば、いつでもどここの国でも受験者の希望する時に受験することができる。
- (2) 主な受験対象としては、海外の初等中等教育機関で日本語を学んでいるノンネイティブ日本語学習者を想定する。ただし、その他の受験者を排除しない。
- (3) 受験者の認知レベルは 15 歳(前期中等教育修了)程度に設定する。
- (4) 出題シラバスは日本語能力試験 4 級出題基準のうち、入門段階で学ぶであろう範囲を中心に設定する。ただし、範囲の設定の際には海外主要国の初等中等教育段階における日本語教育シラバスをも考慮する。

「すしテスト」の基本的枠組みを設定するにあたって最も頭を悩ませたことは、海外の日本語教育の多様性にどう対応するかということであった。海外の、特に初等中等教育段階の日本語教育は各国の教育制度や言語教育政策と密接に関わっているため、その最大公約数をすくいあげることが非常に難しい。そこで、テスト問題の難易度やシラバスを設定するために、世界 40 ヶ国で実施されている日本語能力試験の「4 級前半程度」をひとつの目安とした。

また、世界各国の IT 環境の違いにどのように対応するかも大きな課題であった。「インターネットができればいつでもどこでも受験できる」といっても、受験者の IT 環境は同一ではない。さらに受験者のコンピュタリテラシーも様々であろうことを想定し、テストシステムの開発に

あたっては、コンテンツが過度に重くならないように、なおかつ操作方法や画面遷移がなるべくわかりやすくなるように留意した。

### 3. テストシステムの特徴

「すしテスト」は、インターネットを媒体とすることにより時間的・地理的制約の問題をある程度解消すること、日本語学習のスタートを切ったばかりの学習者が自分の日本語能力を客観的に把握し日本語学習を続けていく上での励みとなるような達成可能な目標を提示することの2点をねらいとしている。受験者が親しみを持てるように、テストサイトのナビゲーターには、受験者と同世代の中学生「いずみ」「つばさ」や、寿司職人「はなまる」などのキャラクターを登場させた。

「すしテスト」は、いつでもどこでも何度でも受験者の好きなときに受験できるので、受験に対して心理的プレッシャーを感じることなく気軽に日本語能力を測定することができる。また、受験履歴管理機能を備えているので、過去の得点をいつでも確認できる。さらに、採点終了後は画面にテスト得点が表示されるだけでなく、得点ランクに応じた寿司が1つもらえる。この寿司は受験履歴画面の寿司桶にも保存されていくので、何度もテストを受ければ受けるほど寿司桶にいろいろな寿司が増えていく仕掛けになっている。

寿司は伝統的な日本の食べ物でありながら、最近では海外でも回転寿司がブームになるなど世界的に受け入れられるようになっている。また、寿司にはいろいろな種類があり、デザイン的にもカラフルで楽しい。そのような見ための楽しさと日本文化の紹介を兼ねるものとして寿司をテストのモチーフに選んだ。

### 4. テスト問題のデザイン

「すしテスト」は(1)ひらがな、カタカナ、基礎的な漢字(50字)の表記、(2)日本語の語彙や文法に関する基礎的知識、(3)基礎的な語彙や文型に関する理解、(4)簡単な応答や適切な挨拶をするための基礎的な言語知識、等を測定するようデザインされている。問題数や試験

表1 テスト問題の構成

パート	問題内容	問題数	時間
もじ	ひらがな・カタカナ・漢字に関する問題	7問	最長 30分
みてきいて	絵を見たり音を聞いたりして、正しい答えを選ぶ問題	7問	
おはなし	空欄に入る正しい答えを選ぶ問題	15問	
合計		29問	

時間等を表1に示す。「このサイトについて」ページの「テストについて」の項では、これらのテストに関する情報やテスト問題で使用している漢字・語彙・文型のリストを公開している。以下、各パートの問題内容についてさらに詳しく述べる。

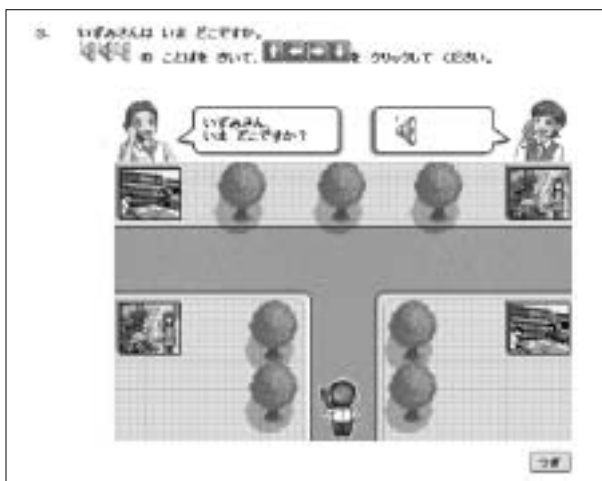
#### 4.1 「もじ」

ひらがな、カタカナについては、字形のよく似ている字と区別ができるかを問う問題や特殊拍の正しい表記を問う問題が出題される。また、漢字については、字形の認識のほかに、訓読みの問題、熟語読みの問題や、ふりがなを見て漢字熟語を完成させる問題が出題される。解答はラジオボタンをクリックして選ぶ形式と、選択肢の文字そのものをクリックして空欄に入れる方式を採っている。後者は書き問題の代わりに設定したもので、選択肢文字は活字体（HTML）でなく教科書体（画像）で提示される。

#### 4.2 「みてきいて」

「みてきいて」では、数や日付の聞き取りに関する問題、挨拶表現に関する問題、手紙文の読解などが出題される。手紙問題以外は音声と画像の両方で問題を提示している。「みてきいて」

図1 問14「道案内問題」画面



は様々なパターンの解答方法があり、それらのパターンを受験者が理解できるかが鍵になる。例えば、問14「道案内問題」は、「道がわからなくなったつばさがいずみに携帯電話をかけ、指示を受けながらいずみのいる場所までたどり着く」という設定で、受験者が3つの音声を聞きながら矢印をクリックすると、画面上のつばさが進んでいく（図1）。与えられている選択肢（場所アイコン）は3つの音声を聞いた後でないと選べない。他の問題よりも難易度

はやや高いが、「聞いた言葉に反応することを繰り返すことによって解答にたどりつく」という、少しゲーム性を取り入れた問題になっている。

#### 4.3 「おはなし」

「おはなし」では、単文15問からなる文法問題が出題される。個々の問題そのものは単文レベルの文法知識があれば解答できるものであるが、従来のテストのように「助詞の問題」「活用の問題」という形式による区分はしていない。順番に問題に解答していくと、だいたい5問ごとにひとつの短い場面が構成され、15問でひとつの「おはなし」になるように構成されている。

これらの問題は、国際交流基金日本語国際センターが制作した『教科書を作ろう：中等教育向

『初級日本語素材集(改訂版)』で取り上げられている12のトピックの中から、「わたし」「休みの日」「教室」「授業」「外出」「旅行」「生活」「高校生」の8つのトピックを選び、さらに様々な下位テーマを設定して作題した<sup>(2)</sup>。テーマに沿って「いずみ」「つばさ」を中心とした中学生の生活世界の中で展開するストーリーを設定し、日本語学習が受験者にとって少しでも身近なものに感じられるよう意図している。

## 5. テスト開発の過程

テスト開発にあたっては、海外の初等・中等日本語教育の状況やインターネット環境に関する情報を収集するため、文献調査に加えて、海外日本語教育派遣専門家・青年日本語教師41名に対してアンケートを行った<sup>(3)</sup>。そこから得られた情報を参照しつつ、テストサイトの設計と並行して試行試験用問題を40セット分作成した。作成した問題は外部モニターのチェックを受け、必要に応じて修正を行った。そして、2003年4月に関西国際センターでパイロットテストを、同年6月に日本語国際センターで非母語話者日本語教師モニターチェックを行った後、海外の初等・中等日本語教育機関を主たる対象に第1回試行試験を実施した。第1回試行試験の結果を受けて、更にテストサイトの改良とテスト問題の改訂を重ね、2003年12月から2004年1月にかけて第2回試行試験を実施した。

### 5.1 第1回試行試験

第1回試行試験では、2種類のテストを行った。まず、(1)受験者自身がテストサイトのトップページからメンバー登録を行い、テスト開始から終了までの一連のタスクを遂行できるかどうか、(2)テスト画面の構成やデザインは受験者にとって魅力的かどうか、の2点を検証するため、CD-ROMにインストールされた試験問題を用いたテスト(以下「CDテスト」)を行った<sup>(4)</sup>。さらに、(3)用意された40パターンのテスト項目内容が受験者にとって妥当かどうかを検証するため、用紙に印刷された試験問題を用いたテスト(以下「紙テスト」)を行った。

「CDテスト」はオーストラリアとマレーシアの2ヶ所で行った(表2)。

表2 「CDテスト」実施地および受験者のプロフィール

実施時期	実施地	受験者数 (男/女)	平均年齢 (年齢幅)
2003年6月	オーストラリア・シドニーの高校	23 (11/12)	13.1歳 (9-24)
2003年7月	マレーシア・クアラルンプールの全寮制高校	42 (0/42)	16.0歳 (15-16)
-	合計	65 (11/54)	-

**検証1** メンバー登録や問題解答等のタスクがスムーズに行えたかどうか

受験者は概ね解答方法を理解し、早い人は10分程度で解き終えていた。一方、受験方法説明画面の内容や一部の問題の解答方法にわかりにくい部分があり、混乱した

受験者もいた。受験者アンケートでは、「ログインやメンバー登録の方法が理解できたか」という質問に対して「すぐに理解できた」と回答した受験者は65名中38名(58.5%)、「『テストのうけかた』の説明はわかりやすかったか」という質問に対して「わかりやすかった」と回答した受験者は65名中44名(67.7%)であった。

**検証2** テスト画面の構成やデザインは受験者にとって魅力的か

CDテストに対する受験者の反応は、「楽しい」「日本語学習に役に立つ」「絵がかわいい」と概ね好意的だった。採点後に寿司が出ることについては、全員同じサンプル画面だったこともあり、特に目立った反応はなかった。受験者アンケートでは、「いずみとつばさが好きか」「絵は解答に役に立ったか」「このテストはおもしろいと思うか」という質問に対する5段階評価の平均値はいずれも4であった。

「紙テスト」は2003年5月から7月にかけて海外17カ国で実施した(表3)。「紙テスト」用の問題は、29問のテスト問題部分のみをA4サイズ用の紙に印刷したものを使用した。受験者

表3 「紙テスト」実施地一覧

国名	受験者数	アンケート回答数
イタリア	13	13
タイ	135	135
インド	19	19
インドネシア	31	31
マレーシア	42	42
イギリス	19	19
メキシコ	47	47
カナダ	138	138
フランス	19	19
フィリピン	53	53
オーストラリア	23	23
エジプト	37	37
ブラジル	75	58
韓国	44	44
ドイツ	13	13
ハンガリー	48	48
米国	731	452
合計	1,487	1,191

には直接問題用紙に解答を書き込み、その他、問題中の指示文や挿絵に関してわからないものやコメントがあれば、母語でもいいのでそれらを書き込むよう指示した。なお、「CDテスト」において音声で出題される問題は「紙テスト」においては文字で出題した。終了後、テストに関するアンケートに回答してもらった。

**検証3** テスト問題の内容は妥当かどうか

試験結果の分析は、改訂すべき問題を抽出するため、受験者の解答傾向を大まかに把握することを目的とした。

「もじ」は特殊拍の表記問題を除き、総じて易しかった。出題された複数の問題セットで正答率や識別力が低かったものは、シラバスから除外したり挿絵の修正や語彙の差し替えを行ったりした。

「みてきいて」は、特に問10(日付の聞き取り)問14(道案内)において、日本語による問題指示が不適切だったため、解答方法が理解できず混乱した受験者が多かった。「CDテスト」の結果も踏まえ、よりわかりやすくなるよう、指示文、出題方法、画像の配置等を改善した。

「おはなし」は、3つのパートの中では最も難易度の高いパートであった。複数の問題セットにおいて正答率

・識別力が明らかに低かった文法項目については「難しい項目」と判断し、出題対象項目から除外した。その結果、当初想定したよりも文法項目の出題範囲は狭くなり、助詞や活用の問題が多くなった。

## 5.2 第2回試行試験

第1回試行試験の後、改善されたテストを用いて、サイトへのアクセスの快適さや操作性等を検証するため、第2回試行試験を実施した。実施に際しては大規模なデータ収集は行わず、ソウル、バンコク、クアラルンプールの国際交流基金日本文化センターの協力を得て具体的なサンプルを収集した(表4)。試行試験実施期間内の都合の良い時に随時受験してもらい、被験者には、あらかじめ配付した画面遷移表に従って進みながらチェックリストに回答してもらった<sup>(5)</sup>。

試行試験の結果、最も大きな問題点は「画面が完全に表示されるまでに時間がかりすぎる」とであることが明らかになった。主な要因は(1)問題生成や採点などのプログラムが同時に動いている、(2)画面に表示される画像サイズが大きく高画質だったためファイルサイズが重い、の2点であった。要因(1)については、インジケータを表示させたりアイコンを点滅させたりすることにより画面がフリーズしているのではないことを伝えるよう改善した。要因(2)については、見苦しくない程度に表示画像の画質を落とし、表示にかかる時間を軽減した。

表4 第2回試行試験実施地一覧

実施期間	2003年12月18日~2004年1月9日		
都市名	ソウル	バンコク	クアラルンプール
被験者数	5名	4名	4名
受験環境	回線	ADSL(2)光ファイバー(2), LAN(3)無記入(1)	ADSL(3)無記入(1)
	通信速度	VDSL(1), 512Kbps(1), 1.5-2Mbps(1), T1(1)無記入(1)	無記入(4), 512Kbps(4)

## 6. おわりに

最後に、「すしテスト」が公開されてから約半年後の2004年9月現在の状況について簡単に述べておく。2004年9月14日現在までの利用状況は、サイトへのアクセス数106,191回、メンバー登録者数18,516名、受験回数延べ29,929回となっている。登録者数の多い上位5カ国は表5のとおりである。公開後約半年でメンバー登録者数が早くも20,000名に近づこうとしているのは嬉しい驚きである。

また、「すしテスト」には「みんなのひろば」コーナーがあり、受験者からの日本語による投稿を受け付けている。以下に、受験者が投稿したコメントの一例を紹介する。

表5 「すしテスト」メンバー登録者数及び受験回数の国別一覧（2004/09/14）

国名	メンバー登録者数	受験回数
韓国	8,300	14,207
中国	2,144	3,877
米国	1,322	2,023
日本	1,048	1,366
オーストラリア	898	977
その他	4,804	7,479
合計	18,516	29,929

「このサイトは偶然知るようになったんですけど、本当に楽しいですね。さっきのテストで、トロをゲットしました。これからどんどん集めてやるぞぉ！と思っています。それでは、またお会いしましょう。」(韓国・女)

この他にも、初級レベルの日本語を駆使して書かれたと思われる、このサイトができたことを喜ぶ感謝の言葉や、世界のどこかで自分と同じように日本語を学んでいる学習者に向けての激励メッセージが「みんなのひろば」へ日々寄せられており、楽しんでこのテストを受けている利用者があることがうかがえる。

今後、この「すしテスト」が初等中等教育段階の日本語学習を支援するものとして一定の役割を果たしていくことを願っている。

謝辞：「すしテスト」の開発にあたって、制作顧問の土岐哲先生には、「すしテスト」の基本姿勢から問題の開発に至るまで様々な面にわたって温かい励ましと有益なご助言をいただいた。また、試行試験に際しては、海外の日本語学習者の皆さんをはじめ、多くの方々のご協力とご支援をいただいた。ここに心より感謝申し上げます。

〔注〕

- <sup>(1)</sup> 運営開始初期の2004年4月末まで、試験課は独立行政法人国際交流基金関西国際センターにあった。
- <sup>(2)</sup> ただし、「すしテスト」においては、『教科書を作ろう』のように8つのトピックが段階的に構成されているわけではない。
- <sup>(3)</sup> 三浦・廣利(2003)p.86 参照。
- <sup>(4)</sup> CD-ROM 版テストでは、採点機能や履歴管理機能をCD-ROMに収めることができなかつたため、採点結果表示画面はあらかじめ設定された満点の場合の画面をサンプルとして提示した。したがって、CDテストにおける受験者のテスト結果データは収集していない。
- <sup>(5)</sup> チェックリストでは、画面表示スピードの快適さ 画面レイアウトの見やすさ メンバー登録方法のわかりやすさ 音声再生スピードの快適さ 道案内問題(問14)の解答方法のわかりやすさ テスト名称の6項目について質問した。

〔参考文献〕

国際交流基金日本語国際センター編(2002a)『教科書を作ろう：中等教育向け初級日本語素材集(改訂版)せつめい編』国際交流基金日本語国際センター

(2002b)『教科書を作ろう：中等教育向け初級日本語素材集(改訂版) れんしゅう編1』国際交流基金日本語国際センター

独立行政法人国際交流基金日本語事業部試験課(2004)「海外の初中等教育段階の日本語学習者に対する支援 - インターネット日本語しけん すしテスト」『日本語教育通信』第49号、3-5、独立行政法人国際交流基金

三浦多佳史・廣利正代(2003)「海外の日本語学習者への支援 - 国際交流基金関西国際センターの現場から - 第11回 初等中等教育段階の日本語学習に対する支援」『日本語学』第22巻第12号、80-90、明治書院